2012年9月5日発行（年4回 3, 6, 9, 12月5日発行）通巻103号

©小林正典

認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

2012年9月
NO.103

Children, Our Future
子どもたちの明日

目 次

福島を考える ---------- 2～3
【カンボジア】卒園児調査が始まりました ---------- 4～5
【カンボジア】スタッフ鈴木の、アンコール探訪記 ---------- 6
CYRからのお知らせ ---------- 7
温故・写真 ---------- 8

幼い難民を考える会（CYR）は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に設立されました。子どもたちが心身ともに成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を生み出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。

福島を考える

7月半ば、CYRは夏空の福島を訪れました。支援施設の経過確認と、今後の支援の可能性を探るための訪問です。

降り立った郡山の空は澄み渡り、清冽な空気に包まれていました。あの事故さえなければ・・・、と思わずにはいられません。特に、原発30km圏内に位置する川内村の風景は、胸を打つ美しさでした。

政府の方針が定まらず、将来の見通しを立てることが困難な福島県。今後の支援のあり方を考えるため、6つの団体・施設の人たちとお話をしてきました。

福島市保健福祉センター「子育て座談会」(福島市)

傾聴や情報提供を通じて、市内で暮らす親子の不安の軽減を目的とした座談会は、震災後、市の健康福祉部の企画で開催されてきました。CYRの訪問時に行われていた行事は2歳未満児が対象で、20組ほどの親子が楽しそうに交流を図っていました。

主催者や内容によって、市内に20カ所ほどある開催場所に集まります。開催にあたっては、保健師、民生児童委員、「赤ちゃん応援隊」らが協力、親子に寄り添いながら、健やかな生活に大切なことを一緒に考えています。(「赤ちゃん応援隊」は、市の委託によるボランティアの育児経験者です。)

CYRの保育セットは保健福祉センターが管理して、主催者が行事内容に合わせてセンターから持ち出し使用しています。とっても上手に活用していました!

はまっ子くらぶ(会津若松市)

昨年1年間、県からの委託で「被災した障がい児に対する相談・援助事業」を「はまっ子くらぶ」で行ったCDS Japan。この事業を今年度、特定非営利活動法人 夢あるき が引き継ぎました。

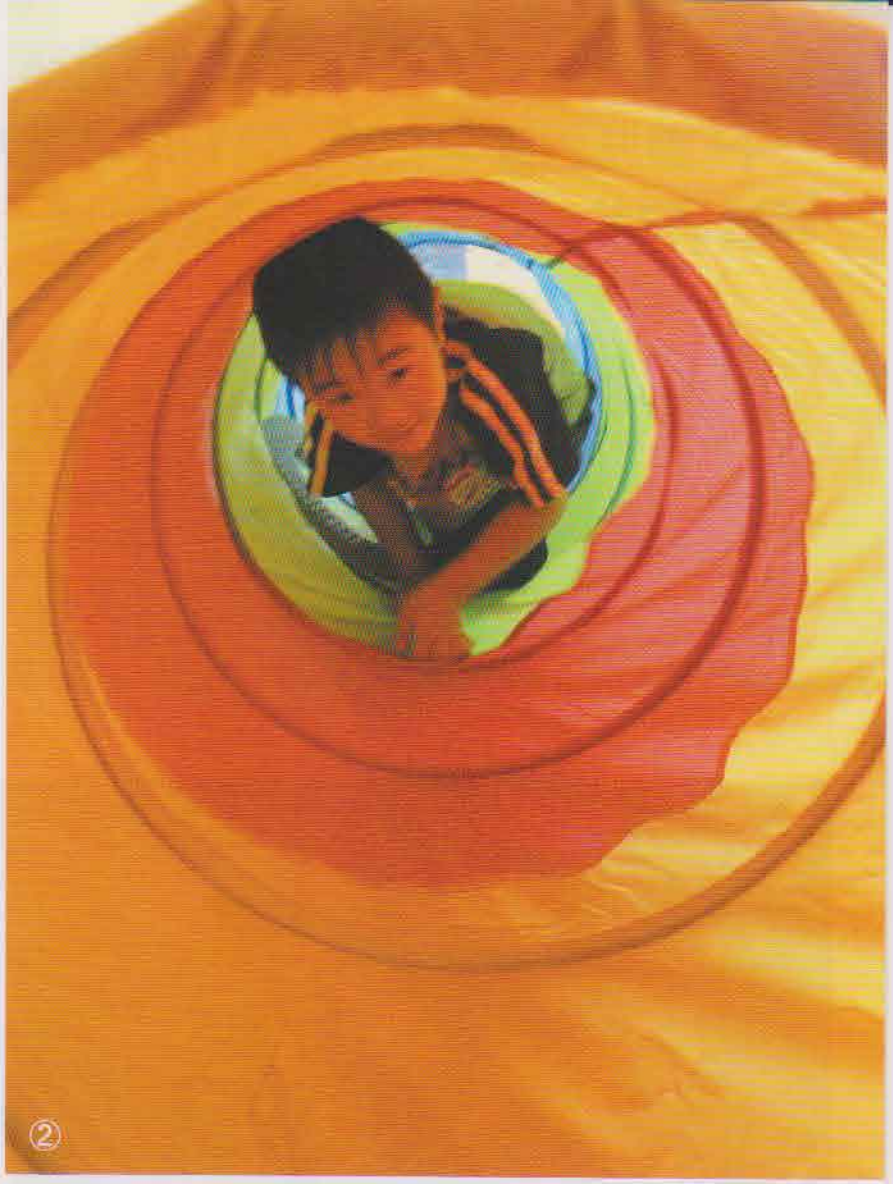
登録児数19名のうち、小学校入学前の子どもは6名です。4名のスタッフの1人は、大熊町の出身。被災後は仮設住宅から通っています。

備品が不足しているこの施設にCYRは、保育や学習に役立てていただくよう、追加で子ども用の個人机とイスを届けました。

認定子ども園かわうち保育園(川内村)

今年3月、郡山の仮設住宅内にあった保育施設を閉じて帰村したかわうち保育園は、村内で保育を再開。先生たちは毎日線量を計測し、保育や給食に最大限の配慮をしています。

限られた予算では遊具や教材の充実が難しかったため、CYRの保育セットが役立ったそうです。職員のみなさんは、訪問を喜んでくださいました。



子どもたちは元気いっぱい！

CYRが寄贈した保育セットで遊ぶ子どもたち
①福島市「保健福祉センター子育て座談会」
②③川内村「認定子ども園かわうち保育園」

まだ使われていない新園舎

ぬくもり溢れる木製の内装。自然に恵まれた阿武隈高地の飯舘村に「やまゆり保育所」は建っている。

震災直前の竣工で、全て福島県産の木材を使い保育所に併設して造られたセンターは、村民の利用がされないままだ。

保育所は現在、川俣町に避難中だ。「子どもたちが口にするものは安全であれ」。保護者や先生たちの心配りで、子どもたちは元気に過ごしている。

（CYRは、ミネラルウォーターを支援しています。）

卒園児調査のため、CYRが運営する2保育所のひとつ、バンキア
家庭訪問し、母親たちに聞き取りを行いました。今回の調査は4回目

卒園児調査について

保育所を巣立った子どもたちは、どのような人生を送っているのだろう……。学校へ進んだのだろうか。中途退学していないだろうか。こうした素朴な関心が、調査を始めたきっかけでした。

また、国際協力NGOの一員として、自らの活動を客観的に検証する姿勢は欠かせません。しかし、保育や幼児教育の協力を行うCYRの場合、保育所に通う子どもや卒園した子どもの人数だけで活動を評価することはできません。彼らがどのような道を歩んでいるのか、保護者や学校の先生は、保育所に意義を見出しているのか。そ

ソックンさん親子が住む家

ソックンさんの母親（上）と、彼女が営む店（右上）

お金があれば夢は叶う

1994年に卒園したスート・ソックンさん(24歳)の家庭は、母ひとり子ひとり。50歳の母親は出産後、無理な農作業で身体を壊し、障がいを負ってしまいました。現在は、店の経営で収入を得ています。長男のソックンさんは高校卒業後縫製工場で働き、月収は$130です。

「生活にゆとりがあれば、大学まで行かせて将来は医者にさせたかった」と母親は語ってくれました。

英語の先生になりたい

新学期の10月から高校生になる
ラン・シアン・ホイさん(16歳)は、
人家族。2人の弟妹、ラン・ソイトリ
くん(13歳)とラン・ソダーウィちゃん
歳)もバンキアン保育所の卒園生
す。両親は農業と織物で生計を立て

学校が好きで、将来は英語の先生
「やりたいことをやってほしい」と笑顔
たこととして、「友達と仲良く過ごす
庭で親の言うことをよく聞く」などを

ホイさんと母親

ン保育所の卒園生宅を
目となります。

うしたことを、継続的に観察・記録・検証することが必要だと考えました。そこで、2003年の第1回目を皮切りに、数年の間隔をおいて調査を実施しているのです。

方法は、回答例を選択する形式です。この手法は、画一的な回答結果を招く心配があるものの、アンケート調査に馴染みのないカンボジアの人たちが答えやすいよう配慮されたものです。率直な声を聞くことができるよう、対象者と同地域に住むカンボジア人保育者が、担当者として戸別訪問で面接を行っています。過去3回実施した調査の結果、保育者が自分の担う役割を再認識するという派生的成果も得ました。

高床の下で話を聞いた

ていて、ホイさんも手伝っています。
になりたいというホイさんに母親は、
を向けました。保育所に通ってよかっ
ことができた」「礼儀正しく育った」「家
挙げてくれました。

ヴィチェットさんの母親と末の弟ソポアくん

サーンさんの家

保育所には未来がある

高校3年生になるサーン・ヴィチェットさん(17歳)は、3人兄弟の長男です。二人の弟、サーン・サオポワンくん(15歳)とサーン・ソポアくん(13歳)もバンキアン保育所に通いました。

農業を営む両親は、お金があればヴィチェットさんを大学に進学させたいそうです。そして将来は、自分の能力に見合った教職に就いてほしいと願っています。

母親は、子どもたちの成長に保育所が与えた影響を、「小学校に入学するための準備ができる」「いろいろな事を学べる」「保護者が知識を身に着けることができる（父兄を対象とした栄養・健康等の講習会が開催されているため）」と挙げてくれました。そして、「保育所には未来がある」と語ったことばが印象的でした。

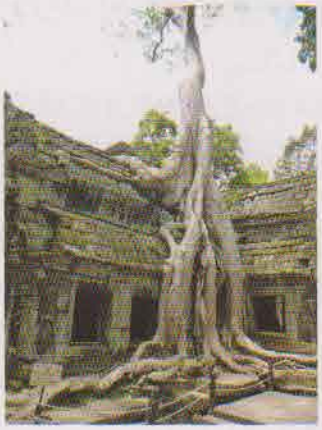
スタッフ鈴木の
アンコール探訪記

荘厳！ 珍妙！？ アンコール遺跡

「まだ行ってないの！？」の声に押され、休日を利用して世界遺産“アンコール遺跡群”に行ってきました。さすがカンボジア随一の観光地、観光客がいっぱいです。オレンジの袈裟を着た人たちの姿もちらほら。お坊さんも観光するのですね～。

アンコール・ワットは、とにかく広大です。その広さは実に東京ディズニーランド4個分！ お堀と緑が大部分を占めますが、それでも炎天下に歩き回るのはかなり大変でした。ここは、アンコール王朝の王が建てた寺院で、壁画にはヒンドゥー教の世界観が多く刻まれています。

次に訪れたバイヨン寺院には、合わせて200近い神々（菩薩）の顔が4面に彫られた塔がそこかしこに建っており、ちょっと異様な雰囲気です。こちらの壁画には、庶民の暮らしぶりが描かれていました。チャンパー軍と戦う戦闘シーン、その中にいる中国兵など、外部からの侵略や干渉に悩まされた立地の歴史を感じさせます。

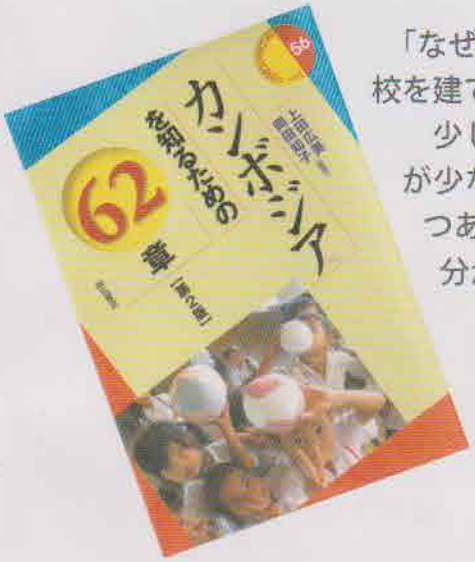


締めくくりは、前出の王が母親のために建てたとされるタ・プローム寺院。あちこちガジュマルに飲み込まれそうになっている姿に、忘れ去られて再発見された遺跡という寂寥感が漂います。

ナーガ神の像。ナーガは、伝統の絹織物ピダン（絵絣）のモチーフにも使われます。

印象に残っているのは、随所に「この場所は○○の支援で修復されています」という看板があったこと。文化財保護も諸外国の援助で行われていることに、カンボジアの現状を垣間見た気がします。

『カンボジアを知るための62章』



「なぜ米ドルが通用するのか」「なぜいつまでも援助が続くのか」「なぜ日本人が学校を建てるのか」（「はじめに」より）。

少しカンボジアに興味を持ってみると、この国に関する「なぜ」や「どうして」が少なくないことに気づきます。本書は、外国資本の進出で時々刻々と変わりつつある現在と、歴史・自然・文化・言語といった不変のカンボジアを62の章で分かりやすく紹介している、カンボジアの入門書です。

編著は、東京外国語大学でカンボジア研究を担当する准教授お二人。CYRが信頼を寄せる当会のアドバイザーです。改訂版が発行されたばかりの本書をお手に取って、カンボジアの「なぜ」「どうして」を解き明かしてみませんか。

『カンボジアを知るための62章』上田広美・岡田知子 編著　明石書店

書き損じはがき、未使用はがき、切手ご寄付のお願い

カンボジアや被災地への郵送料、会員のみなさまへのお便り送付のために、大切に活用します。ぜひ事務所までお送りください！

（はがきの寄付額は郵便局交換手数料を差し引いた額となります）

※ 使用済みテレホンカードや使用済み切手は集めておりません。ご了承くださいませ。

書き損じはがき、未使用はがき・切手のご寄付は、寄付金控除証明書発行の対象となります。

本サポ！ にご協力を

BOOK・OFF

CYRの新しい寄付プログラム **本サポ！** を通じて、カンボジアと被災地の子どもたち・女性たちへのご支援をお願いします。お申し込みは、ホームページ（http://www.cyr.or.jp/）左側のバナーをクリック！ お電話やファクスでもどうぞ（TEL: 03-3943-6971、FAX: 03-3943-6073）。ご協力をお願いいたします！

神奈川県在住の皆さまへ

本会へのご寄付が、個人県民税の寄付金税額控除の対象に指定されました。（神奈川県県税条例第10条第1項に規定）。

所得税・県民税の寄付金税額控除を受けるためには、本会が発行する寄附金受領書（正規証明書）を添えて確定申告をする必要があります。詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

会員を募集しています。

総会やイベントに出席し、一緒に活動を支えてください。
入会者には、カンボジア手織りシルクマスコット、
活動紹介DVDをプレゼントする他、
ニュースレター（本誌）をお送りします。
CYR直営店「ラタナ」でのお買い物は、全製品1割引きとなります。

◆一般会員　10,000円　◆学生会員　3,000円
◆団体会員　30,000円

カンボジア 草木で染めた織物展

平成24年9月22日（金）～23日（土）

22日：午前11時30分～午後3時
23日：午前10時～午後3時
入場無料

ピダンをはじめ、草木染めの衣類や小物を展示販売します。

会場：孝道山 本仏殿
〒221-0064 横浜市神奈川区鳥越38
お問い合わせ：TEL:03-3943-6972（CYR）

温故・写真

2011年 タプロム村：家屋に迫る水

1990年 カオイダン難民キャンプ：
水浴び代わりに雨を浴びる子どもたち

【雨：ฝนฟ้า（プリアン）】 水の確保が難しいカンボジアで、雨は天の恵みだ。家の軒にとりつけた水瓶に溜めた雨水は、さまざまな用途に使われる。収穫も天候次第。降雨が人びとの生活の基盤になっていると言える。しかし、ひとたび牙をむいた自然ほど恐ろしいものはない。昨年、タイとカンボジアを襲った豪雨による被害は、未だ記憶に新しい。今年も時期外れに降った大雨に、農民は田植えの時期を計りあぐねている。

（『カンボジアを知るための62章』参照）

■ 定価:1,000円
(送料200円
※10冊以上は無料)

■ サイズ:縦42cm × 横30cm

CYRのオリジナルカレンダー、

カンボジアの子どもたち 2013

が発売中です！

世界78カ国を飛び回るフリーフォトジャーナリストの小林正典さんが撮影した、子どもたちの笑顔がいっぱいのカレンダーです。

カレンダーの収益は、保育支援に役立てられます。例えば1冊（1,000円+送料）のご購入で、50人の子どもたちに給食を提供できます。

発売は限定3,000部。売り切れ次第販売終了です。みなさまのお申し込みをお待ちしています！

認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

〒112-0013 東京都文京区音羽 1-10-4 池田ビル 3F
TEL: 03-3943-6971 FAX: 03-3943-6973 / E-mail: info@cyr.or.jp / URL: http://www.cyr.or.jp

子どもたちの明日 103 号
発行日：2012 年 9 月 5 日 発行人：深水 正勝

＊幼い難民を考える会（CYR）は認定NPO法人です。個人・法人によるご寄付、相続財産のご寄付は、税制優遇措置を受けられます＊